



中村俊定文庫
文庫 18
260



中村
俊定

〇〇〇

序

夫福祿壽考之原由ハ
一也之志ハ長也之
年也之志ハ長也之
法服不角矣所ハ
孝行也之志ハ長也之
道也之志ハ長也之

この書物は何
宗の心は

長谷川村作
長谷川村作

唯三月の如く母の如く
 素の夜に輝きたり只
 悠々然とく午は適然
 札持なりとの子孫を以て
 中引たり不局若角魔^ガ汝^ガ如^ク
 賀^ハ信^シ一^ノ葉^ノの^ハと^ハ求^メ
 一葉^ノ成^ル如^ク平^ノ序^ノ如^ク

喜懼の孝志、
 吾^レ業^ヲ以^テ能^ク
 能^ク破^ルは^ニを^シ
 寸^ノ分^ノの^ハ久^ク
 毎^レ人^ノの^ハ作^ル



五^ノ蔵^ノ戲^ノ書



少く列を成るるを今も思難



鶴侍^{シハ}は^シ今^ハ風^ハを^シ今^ハも^ハ思^ハ難^ク

権月堂

敲舟

般^ハも^ハ今^ハも^ハ思^ハ難^ク

松^ハも^ハ今^ハも^ハ思^ハ難^ク

今^ハも^ハ思^ハ難^ク

今^ハも^ハ思^ハ難^ク

今^ハも^ハ思^ハ難^ク

今

今^ハも^ハ思^ハ難^ク

今^ハも^ハ思^ハ難^ク

今月堂
千慮



松千堂画

今^ハも^ハ思^ハ難^ク

山月堂

千羽

今^ハも^ハ思^ハ難^ク

千羽

今^ハも^ハ思^ハ難^ク

寿角

中へん心懐をいふ事とてあへ
て川にさかき所外に於て流る
る

千の飛百の夢のこゝろ千とて
工籬 用月堂

翁の如く構へるもさう
はたはたはたはたはたはたはた

後子

千の目も身も心もさう
荻花忘 千針家士

千の目も心もさう
仙鶴

千の目も心もさう
輝江

千の目も心もさう
千溪

虎杖の心もさう
花嵐

千の目も心もさう
一和

千の目も心もさう
砥角

千の目も心もさう
懐之

千の目も心もさう
涯角

千の目も心もさう
雪光

千の目も心もさう
花水

千の目も心もさう
芳例

千の目も心もさう
可笑

千の目も心もさう
孤木

十人ノ片ノ花ノ大傳
 以ノ事ヲ探集スルノ事
 今ノ世ニ在リテハ
 志ヲ立テテハ
 流傳ハキニ
 東洋ノ諸國ニ
 樂シキ事ヲ
 表シテハ
 機ノ事ヲ

尚舟
 文角
 忠角
 加賀角
 仁獸堂
 善雄堂
 長角
 谷月堂
 頼舟
 樗堂
 祖角
 希切堂
 岳舟
 不曲堂
 五角

花ノ片ノ花ノ大傳
 以ノ事ヲ探集スルノ事
 今ノ世ニ在リテハ
 志ヲ立テテハ
 流傳ハキニ
 東洋ノ諸國ニ
 樂シキ事ヲ
 表シテハ
 機ノ事ヲ

尚舟
 文角
 忠角
 加賀角
 仁獸堂
 善雄堂
 長角
 谷月堂
 頼舟
 樗堂
 祖角
 希切堂
 岳舟
 不曲堂
 五角

予のゆくは... 勸学堂 不倦

予のゆくは... 不倦

予のゆくは... 不倦

予のゆくは... 不倦

予のゆくは... 不倦

予のゆくは... 不倦

予のゆくは... 不倦

予のゆくは... 不倦

予のゆくは... 不倦

予のゆくは... 不倦

常盤木



備前 新積堂 簡俊角

予のゆくは... 能舟

とんすのやんをまはりのりへかたス

千の輝千と名の枝心り意弱 全竹東堂

つりふりやん入 全同本堂 唯角

千の智六千の早うの田御うぬ 全サ東堂 序角

千の身御伊のみの余をよど 全 寸反

誌やちよせ 全 東角

千のてん 全 又周

千のてん 全 照解

千のてん 全 鹿角

全 豊角

千のてん 全 鹿角

千のてん 全 寸角

千のてん 全 鹿角

千のてん 全 五角

千のてん 全 五角

千のてん 全 鹿角

千のてん 全 鹿角

千のてん 全 千角

千のてん 全 千角

口

下

仙翁大和歌
牛山

日活の序
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

舟
舟

仙翁大和歌

牛山

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

口増田氏 柳舟
 口一陽軒 梅舟
 口名龍堂 洛書
 口陽學本屋 古柳
 口亦月堂 栴檀
 口潤也堂 藍舟
 照月堂 千雲
 壽月堂 善舟
 互堂 凸舟
 之舩のふ電 於名名々美

明月堂 竹舟
 有月堂 隣角
 志月堂 婢角
 悠月堂 保角
 枝月堂 葉角
 真月堂 千瑞
 百陽堂 松化
 右月堂 左角
 仲良の良 (三) 角の角の者



仙鹿堂
 倚舟
 敬又堂
 弟舟
 松音堂
 千如
 友仙堂
 不迫
 川合
 宮南堂
 聞舟
 星角
 岩羊堂
 晴月堂
 善輝
 人壽
 鶴
 清月
 止角

九

十

くもあつて川に流るる水に
漂はるる心もあつて
恨めしくもあつて
けしきもあつて
あつて
あつて
あつて
あつて
あつて
あつて
あつて

くもあつて川に流るる水に
漂はるる心もあつて
恨めしくもあつて
けしきもあつて
あつて
あつて
あつて
あつて
あつて
あつて
あつて

遊々成る所々新色了
 大坊の在る道とけりし
 兼のよのつゆりたの傳
 東や比類とて六の吹
 比のさうらうの腸の怒る也
 左に柳のふらふらと
 がの養はらうとてしふ月は眼
 ぶらぶらと寝傳のまはる
 了るのうらうとて養のたはる
 致る危るのうらうとて

壽角
 隣角
 善角
 不再
 千瑞
 壽角
 隣角
 不再
 善角
 千瑞

二
 捨つる所もとら轉法桶
 節をく麻中をくと深き活
 耀の光は依りてのやう
 上は給は茂る者今もたはる具
 石のらさるる事しれり如
 字直は改りて事とて事は層
 傳の事とてしれり如
 事の事とてしれり如
 事の事とてしれり如
 事の事とてしれり如

不角
 善角
 千瑞
 善角
 不再
 千瑞
 隣角
 不角
 千瑞

高甲輪一冠の飾
 侍は古の器の後に也
 師は舞の舞の命舟
 若くは舞の舞の命舟
 刻は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟

障角
 善角
 不舟
 千端
 善角
 不舟
 善角
 不舟
 善角

ニラ

高甲輪一冠の飾
 侍は古の器の後に也
 師は舞の舞の命舟
 若くは舞の舞の命舟
 刻は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟
 忘は舞の舞の命舟

善角
 不舟
 善角
 不舟
 善角
 不舟
 善角
 不舟
 善角

朝のまもりさしん身塚
 善後
 詩中弄心流のちんん愛
 不冉
 冷み枝のくもり
 善角
 振ふりまき起るまはれ
 隙舟
 ほろりまき起るまはれ
 葉角
 花枝の揺れはれら
 千端
 ともほろりまき起るまはれ
 壽角
 有るが席上回者の非
 葉冉
 つつまき起るまはれ
 善後
 色とりけり待言者
 不冉

枝のまもりさしん身塚
 隙舟
 詩中弄心流のちんん愛
 不冉
 冷み枝のくもり
 善角
 振ふりまき起るまはれ
 隙舟
 ほろりまき起るまはれ
 葉角
 花枝の揺れはれら
 千端
 ともほろりまき起るまはれ
 壽角
 有るが席上回者の非
 葉冉
 つつまき起るまはれ
 善後
 色とりけり待言者
 不冉

十五

寶曆

ニラ

金^シ之^ニ臺^ノ上^ニ月^ノ心^ノ可^ク
 燈^シ如^ク一^ニ而^シ以^テ羅^ノ維^ノ其^ノ末^ノ也^ニ
 陳^レ後^ニ止^シ鳥^ノ帽^ノ子^ノ心^ノ陳^レ
 以^テ在^ル之^レ後^ニの^レ心^ノ目^ノ以^テ流^ル
 及^テ噴^ク若^ク母^ノ心^ノ之^レ心^ノ乳^ノ
 様^ノ如^クの^レ心^ノ心^ノ之^レ心^ノ出^ル
 其^ノ量^ノ也^ニ心^ノ之^レ心^ノ之^レ心^ノ之^レ心^ノ
 錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ
 心^ノ之^レ心^ノ心^ノ之^レ心^ノ心^ノ之^レ心^ノ
 錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ

善^ノ流
 善^ノ舟
 不^レ舟
 葉^ノ角
 善^ノ角
 善^ノ流
 善^ノ舟
 不^レ舟
 葉^ノ角

十

錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ
 錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ
 錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ
 錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ
 錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ
 錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ
 錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ
 錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ
 錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ
 錦^ノ本^ノも^ハ一^ノ本^ノ也^ハ海^ノハ^ハ心^ノ之^レ心^ノ

善^ノ角
 善^ノ舟
 不^レ舟
 善^ノ角
 善^ノ流
 善^ノ舟
 不^レ舟
 善^ノ角

十一
 十六

樹のまをのりし松栢の戸
試みる冬物ハ嘘ハ
友の捨ハ表ハ舞
中ハ心ハ
幸ハ樹ハ雪ハ
陽ハ雪ハ
宮ハ
後ハ
浪上ハ

不芳
千瑞
不冉
善冉
千瑞
不冉
善角
善角
善角
千瑞

まの生を人けの石也
か
心
橋
そ
不
あ
そ
知
あ

歌 山

善冉
不角
善角
善角
千瑞
不角
善角
善角
千瑞

十七

い電偏りしきりもくし
美わらう銀の文母ら
信下りてしきりもくし
後云ふもランツカフボキヤ
つとまきし片ら
看極家退きし
善後上りハ
重宝の申著
くく妖人 人き
股釣く廻文入る

辰舟
不局
け眼
辰舟
不局
け眼
辰舟
不局

二
根ら今瓜下り
らそ作ハ
かほく人
月花白
本備し
くく
牛
新
寝ん
下り

け眼
辰舟
不局
け眼
辰舟
不局
け眼
辰舟
不局

項よりぞくし浪士煙火
門中劇朝人如く雷貝
作らばは岸より外は鳥賊
敵よりか程く張ら振の
新の事か意もさるる
新より目の海をいりし舟
歌より海にまねの心
うらみの心もさるる心細
去る心もさるる心細
海より心細く心細

壽角
け眼
不局
壽角
辰舟
不局
け眼
辰角
壽角
け眼

えん少類より庫衛心書
ふり心より海奥心書
鷹の果より心書

不局
壽角
辰角

歌 撰

ふん草の果より心書
真加若若行い心書
子草の果より心書
後より心書
少現の果より心書
心より心書

辰舟
不局
壽角
け眼



ウ
大なる壽角^{サイカク}をまわしりふ
美しくひのちかといひ輝
あはれなる色をみれば
物よりほたけは是れは
まはるまはるはまた
竹田の物も下り
まはるまはるはまた
池ありまわい池い
あはれなる色をみれば
人よりほたけは是れは
不局
斬角
斬角
斬角
斬角
斬角
斬角
斬角
斬角

ト
月よ^{サテ}あかたにさの瓦字^{サカ}
根柱^ネと離さ^ト
屏風^{ビョウ}にさの物も下り
曲^{マカ}の意^イはな^ナなる^ル
まはるまはるはまた
あはれなる色をみれば
客舟^{カクセン}の舟^{フネ}の増^{マコ}は且^ナ勝^{マカ}寺
今^{イマ}はさる^サ餘^{ハセ}舟^{フネ}の舟^{フネ}
不局
斬角
斬角
斬角
斬角
斬角
斬角
斬角
斬角

う
諸集^ツの^ス所^カを^シて^モも^トの^モり^トの^モり
片^クら^マま^シる^モの^ハは^シる^モの^ハは^シる^モ
身^ミの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
お^ッの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
世^セの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
だ^ダの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
体^タの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
川^カの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
か^カの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
ま^マの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ

壽角
千
竹舟
壽角
不局
千
竹舟
千
壽角
抄

兩吟

吹^フの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
幾^キの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
浮^ウの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
芝^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
身^ミの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
新^ニの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
南^ナの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
非^ヒの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ
ゲ^ゲの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シの^ハら^シ

星舟
千
星舟
千
星舟
千
星舟
今

貴
三

夕 夕 血 何 折 の 雁 子 千 翁

即 之 及 以 寄 寄 賜 之 以 何 今

欲 之 也 与 括 之 使 新 之 登 星 舟

物 有 以 身 六 衛 之 以 所 之 今

和 備 之 坪 之 生 備 城 比 形 今

村 子 之 之 後 乃 之 也 之 性 今

賀

事 人 也 之 也 之 之 傳 之 松 花 之 堂

君 之 人 柱 之 也 之 之 之 之 之 之 系 柳 堂 蛙 角

之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 千 翁 之 堂

之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 孤 在 今

之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 芝 原 今

之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 谷 翁 今

奉賀

千翁不角居士八度

正

仙翁顔若玉八十轉精神

殿上曾題句青蓮是後身

也足菴主古子敬州

臣等如新命...
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

宗一松根言
古天

あはれ...
おのれ...
おのれ...
おのれ...

そつ...
所...
所...

官...
海角
海角

ら...
千...
千...
千...

千...
千...
千...
千...

千...
千...
千...
千...

千...
千...
千...
千...

千...
千...
千...
千...

慈文...
今...
不局

本...
不局

ふらふら心移る

此眼を

秋の心しんじり

不局

ふらふら干し草

玲角

ハツツニ眼が

壽角

片魚名

辰角

ふらふら道徳

手席

ふらふら津波

二重舟

ふらふら若狭

快堂

ふらふら信濃

梅笑

ふらふら糸

壽健

ふらふら舟

松舟

号子ハ松舟無くこと心付し

翠ハ草ハ草舟飲く忽チ

古城の子ハ草舟ハ御家の

つる草子有候ハ草舟ハ

白くハ草舟ハ草舟ハ

草舟ハ草舟ハ草舟ハ

草舟ハ草舟ハ草舟ハ

草舟ハ草舟ハ草舟ハ

草舟ハ草舟ハ草舟ハ

眉とむしむ鼓く水雞の東も文く附と
 耶野の格くすわる實我為い然もと川
 揚く白髪の色存あり松舟舟の松の字
 皮は十可かけくそそのの字をよめあは
 り何人かとそんと思へん夢ハさあさ
 扱も奇也事多りんつるものく博雅の
 後と名子とそそ成教家か〜終く〜りた

武埜村山 通天堂

高角跋

寛保元年辛酉



水代
 今
 秋
 卯

ついで

高角
 武埜村山
 通天堂
 高角跋



